

サブドレン他水処理施設の運用状況



東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

1. サブドレン他水処理施設の概要



■ サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

＜集水設備＞

[サブドレン集水設備](#)

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

[地下水ドレン集水設備](#)

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンボンドから地下水をくみ上げる設備

＜浄化設備＞

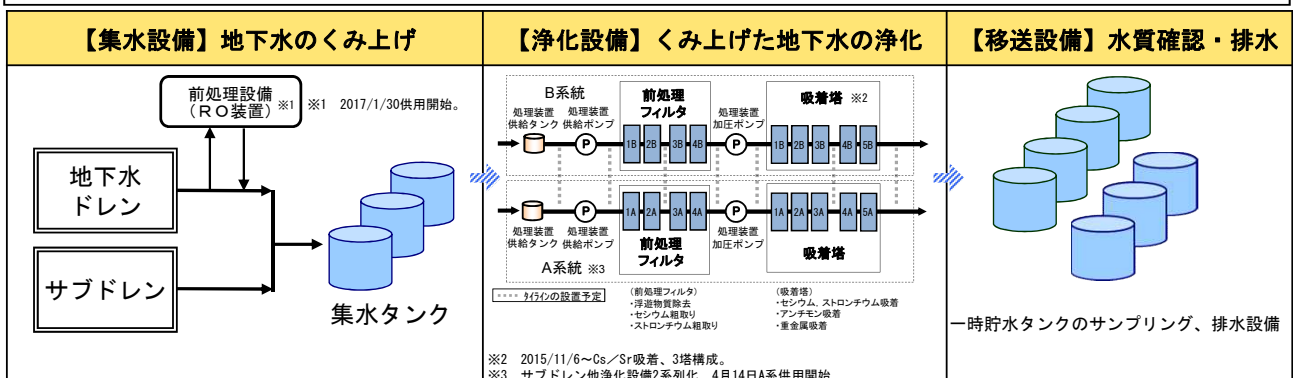
[サブドレン他浄化設備](#)

くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分に低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

＜移送設備＞

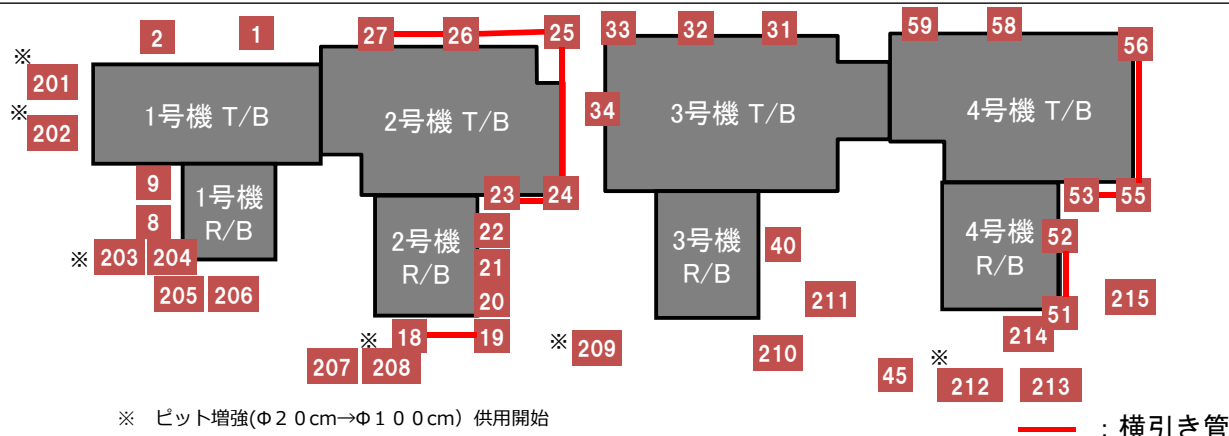
[サブドレン他移送設備](#)

一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備



2-1. サブドレンの汲み上げ状況（24時間運転）

- 山側サブドレンL値をT.P.5,064 から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年9月17日～
L値設定：2017年8月3日～ T.P.1,800 で稼働中。
- 海側サブドレンL値をT.P. 4,064 から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
実施期間：2015年10月30日～
L値設定：2017年8月3日～ T.P.1,800 で稼働中。
- 至近一ヵ月あたりの平均汲み上げ量：約554m³（2017年10月28日15時～2017年11月27日15時）
- 2017年10月23日サブドレンピットNo.19において水位計の指示値がオーバースケールした状態となったことからLOO逸脱と判断し、サブドレンポンプ全台の汲み上げを停止。同日、水位計が正常であることを確認し、建屋に貯留する滞留水がサブドレン水の水位を超えていないと判断。順次サブドレンポンプの汲み上げを再開。

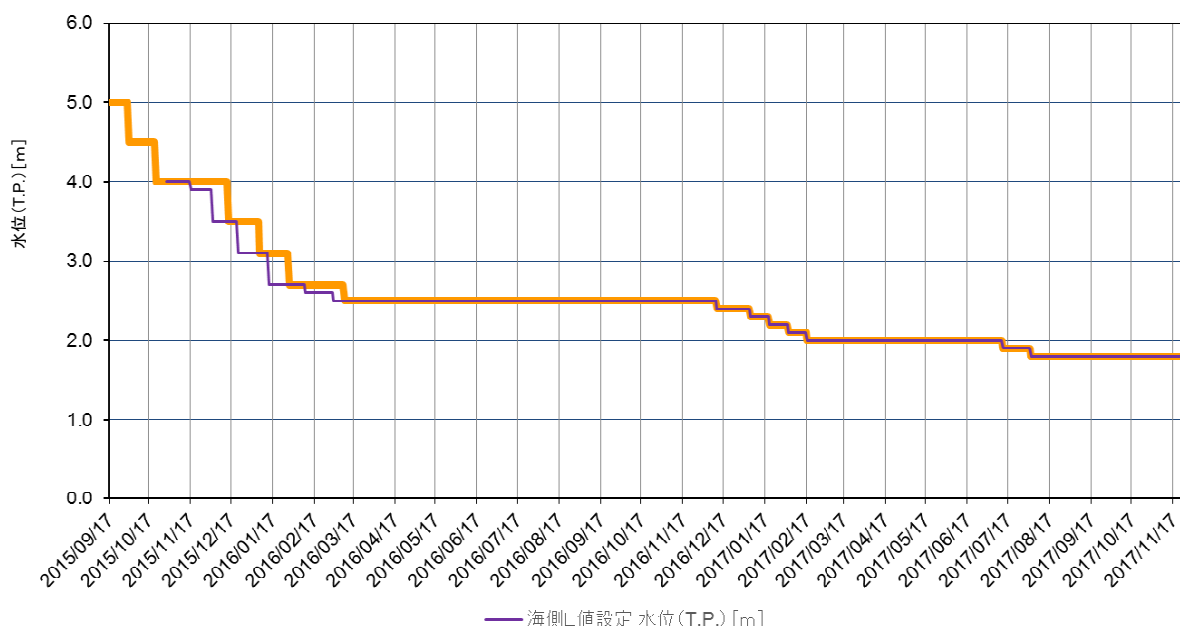


2-2. サブドレン稼働状況

- (山側サブドレン) 2015/9/17より山側サブドレン稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定：2017年8月3日～ T.P.1,800 で稼働中。
- (海側サブドレン) 2015/10/30より海側サブドレン稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定：2017年8月3日～ T.P.1,800 で稼働中。

山側・海側サブドレン(L値設定)

2017/11/27(現在)



3. 至近の排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2017年11月27日までに559回目の排水を完了。排水量は、合計460,076m³。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）未満である。

排水日		11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/27
一時貯水タンクNo.		E	F	G	A	B	C
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/22
	Cs-134	ND(0.71)	ND(0.54)	ND(0.47)	ND(0.66)	ND(0.68)	ND(0.76)
	Cs-137	ND(0.58)	ND(0.82)	ND(0.58)	ND(0.68)	ND(0.63)	ND(0.58)
	全β	ND(2.6)	ND(0.70)	ND(2.4)	ND(2.2)	ND(2.4)	ND(2.4)
	H-3	760	840	890	850	800	840
排水量 (m³)		836	691	541	687	732	676
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19
	Cs-134	6.0	13	15	7.0	11	6.7
	Cs-137	71	92	120	85	85	82
	全β	－	－	－	－	－	－
	H-3	830	990	930	850	700	880

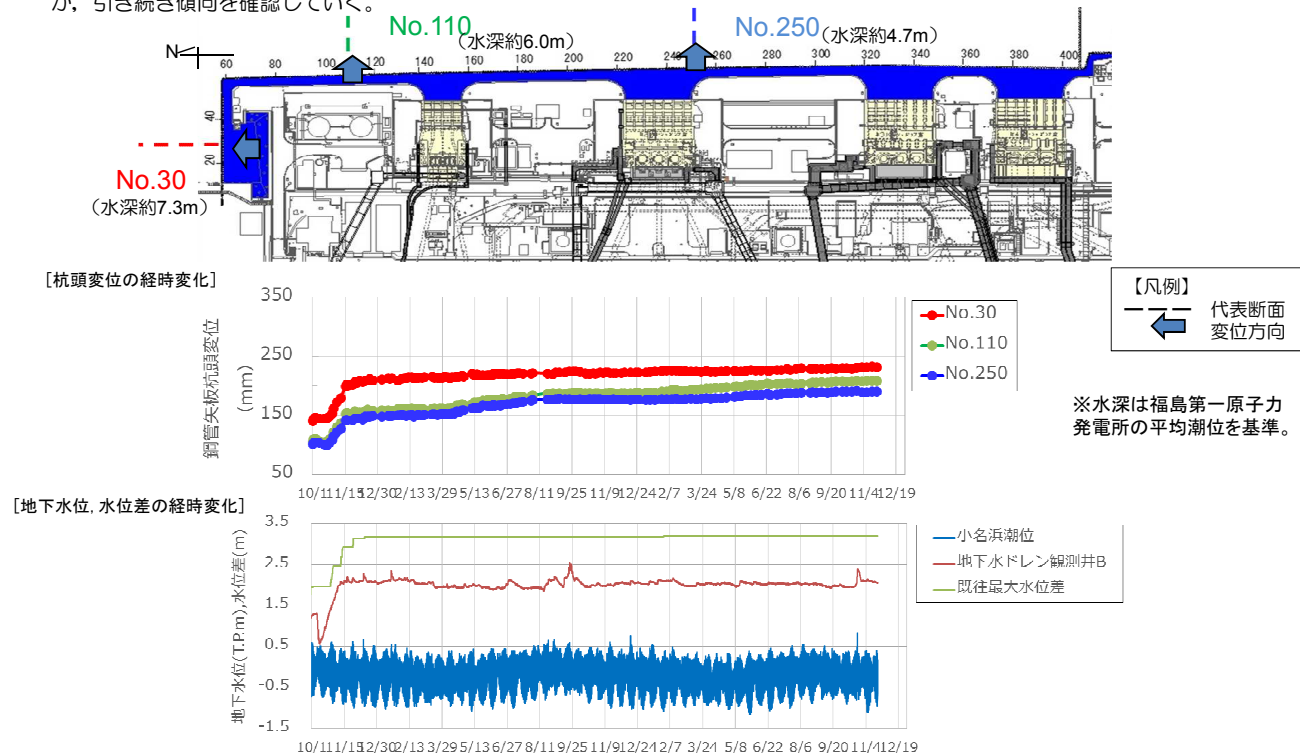
* NDは検出限界値未満を表し、() 内に検出限界値を示す。

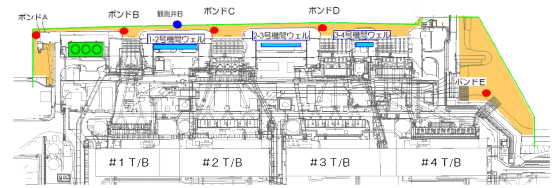
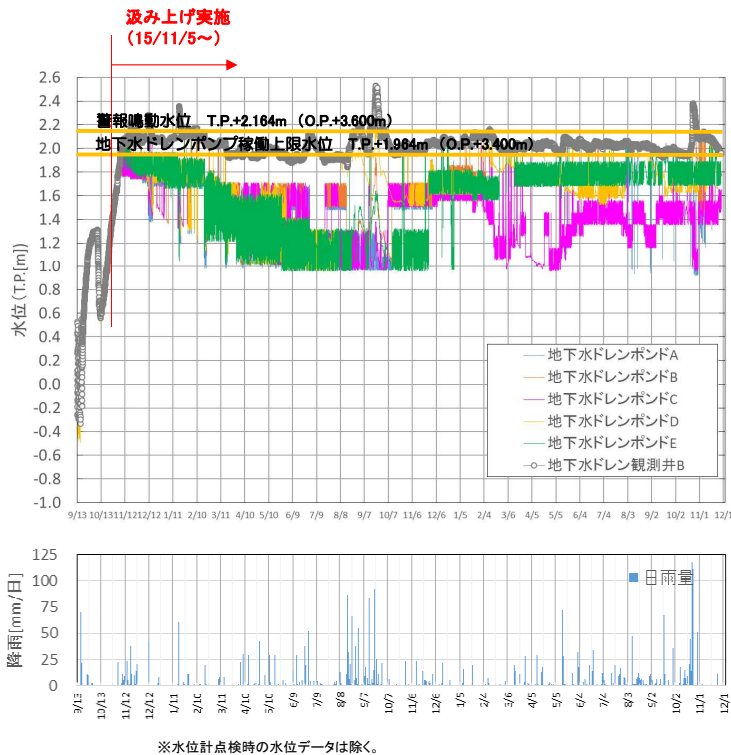
* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

<参考1> 鋼管矢板のたわみに伴う杭頭変位について

- たわみに伴い生じた鋼管矢板杭頭変位については、至近において顕著な変位増加は確認されておらず鋼管矢板の健全性に問題はないが、引き続き傾向を確認していく。





サブドレン集水タンク及びT/B移送量 (m³/日週平均)

移送先	合計	地下水ドレン				合計
		ポンダA ポンダB	ポンダC ポンダD	ポンダE	ポンダF	
11/7 ~ 11/13	213	19	21	0	99	74
11/14 ~ 11/20	163	1	2	0	85	75
11/21 ~ 11/27	164	0	0	0	88	76

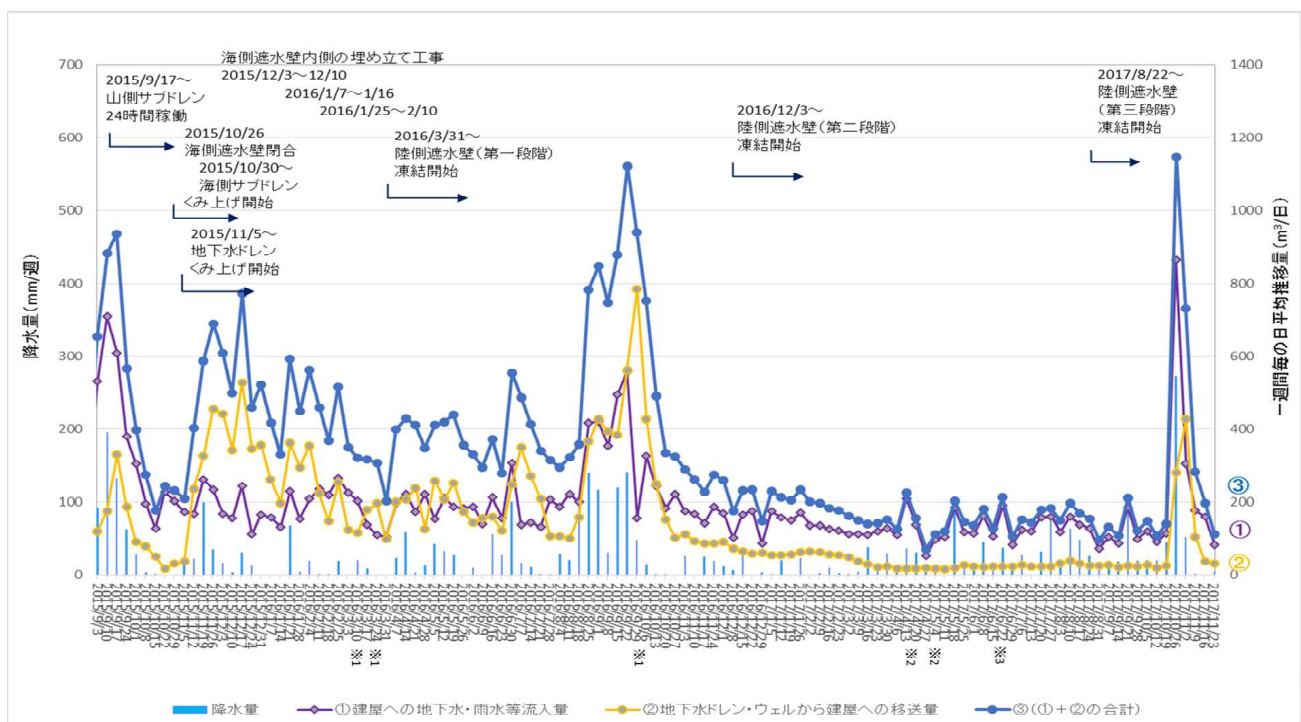
※既往最低値：合計79m³/日週平均 (H29/3/7~H29/3/13)

ウェルポイント移送量 (m³/日週平均)

移送先	合計	ウェルポイント		
		1-2号間	2-3号間	3-4号間
11/7 ~ 11/13	37	34	0	3
11/14 ~ 11/20	34	32	1	1
11/21 ~ 11/27	25	25	0	0

※移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク

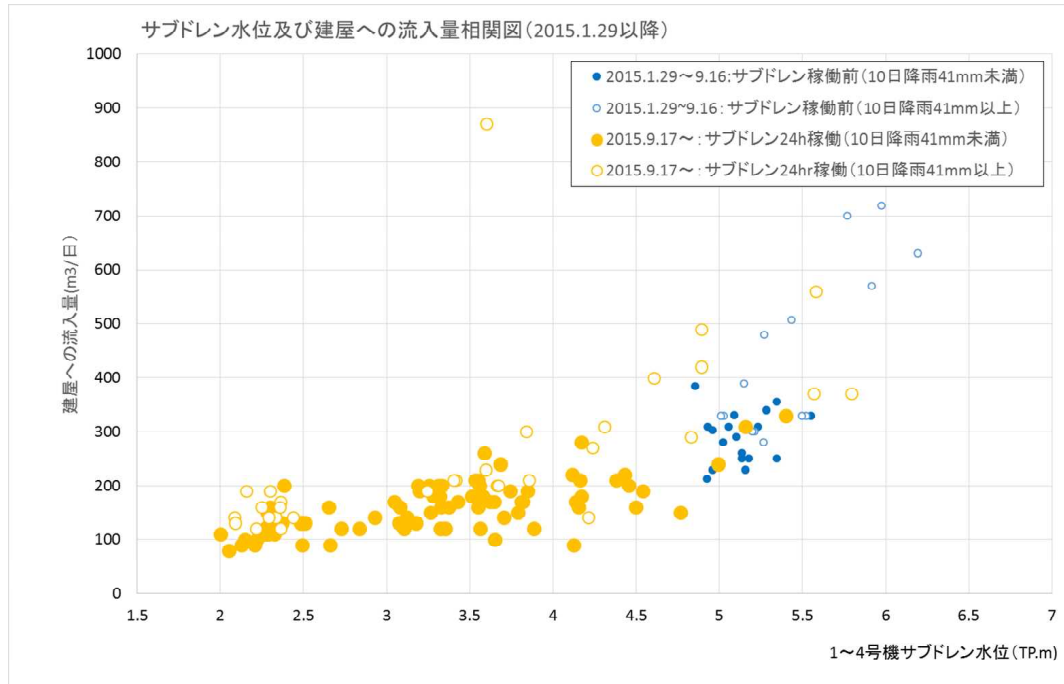
- ①建屋への地下水・雨水等流入量: 82m³/日, ②地下水ドレン・ウェルからの建屋への移送量: 31m³/日, ③(①+②の合計): 113m³/日, 降雨4.0mm/週
- ※1 建屋水位計の校正を実施
- ※2 集中RW建屋の貯蔵量算出に必要な, 水位に応じた断面積(評価値)の不確かさによるものと推定
- ※3 2017/6/1の評価以降, 集中RW建屋の貯蔵量算出に必要な, 水位に応じた断面積について補正



サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果（1-4号機サブドレン水位） **TEPCO**

2017.11.23現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位と相関が高いことから、サブドレンの水位（全孔平均）でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がT.P. 3.0mを下回ると、建屋への流入量も150m³/日を下回ることが多くなっているが、降雨による流入量の増加も認められる。特に台風時には流入量が大きく増加したが、以降はこれまでの傾向に戻っている。



注) 各建屋水位計の校正による補正、2015.4.以降のプロセス建屋面積の補正、及びサブドレンの水位計設定値に誤りについて補正を実施

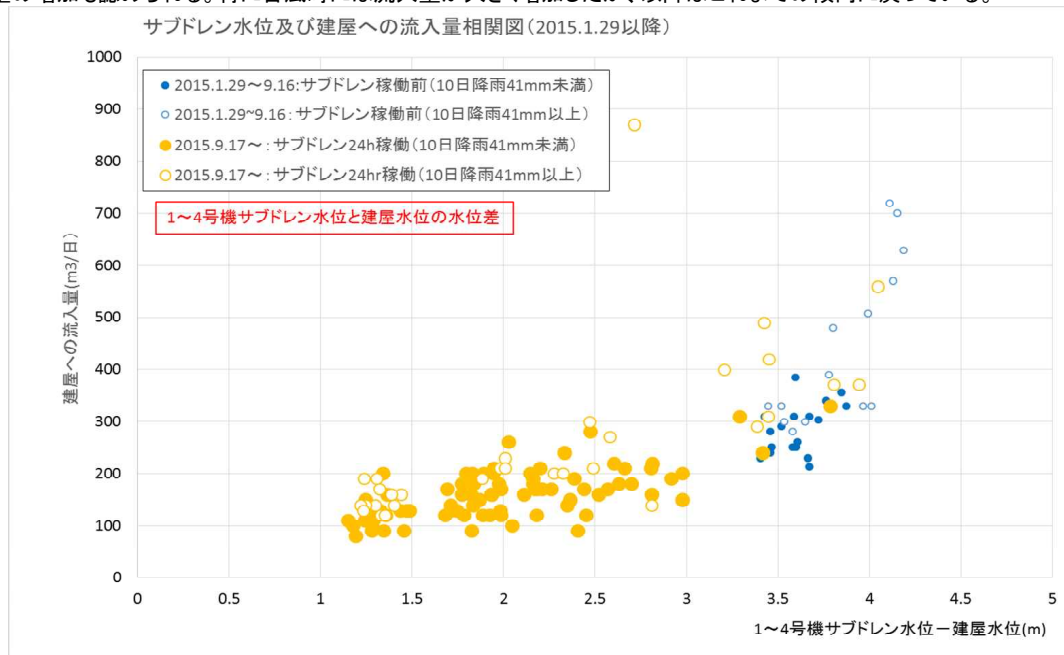
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

8

サブドレン稼働後における建屋流入量評価結果（サブドレン水位-建屋水位） **TEPCO**

2017.11.23現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位－建屋水位とも相関が高いことから、サブドレンの水位（全孔平均）－建屋水位でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働により水位差が1.5mを下回ると、建屋への流入量も150m³/日を下回ることが多くなっているが、降雨による地下水の流入量の増加も認められる。特に台風時には流入量が大きく増加したが、以降はこれまでの傾向に戻っている。



注) 各建屋水位計の校正による補正、2015.4.以降のプロセス建屋面積の補正、及びサブドレンの水位計設定値に誤りについて補正を実施

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

9